

第4回千葉県立文化会館のあり方検討会議 開催結果

1 日時 令和7年3月24日(月) 午後3時から3時20分まで

2 場所 ホテルプラザ菜の花4階会議室 羽衣

3 出席委員 (委員総数4名中3名出席) (会長以下50音順)
能村委員(会長)、粕谷委員、濱委員

4 会議次第

1 開 会

2 挨 拶

3 議 事

(1) 千葉県立文化会館の今後のあり方(案)について

(2) その他

4 閉 会

5 議事概要

(1) 千葉県立文化会館の今後のあり方(案)について

これまでの検討過程における意見等を踏まえ作成した「千葉県立文化会館の今後のあり方(案)」について事務局から説明し、その後各委員による意見交換を行った。

<意見概要>

- ・ 今後、実際に運用していく時に地域との具体的な連携や思いを、県全体で共有していけたらなおさら良いだろうと思った。改修などについても、県の思いと、工事を進める方の思いが一体となってこれから進めていく必要があるのではないか。
- ・ 本文中に記載されている「文化芸術を通じて地域の活性化を図る」や、「地域に根差した文化活動の場としての役割」、「県民にとって魅力的な空間を提供できるよう検討する」など、改修をして立派な施設を作っていく、仏を作って、魂をどうやって入れていくかというところがこれからの大きな課題になっていくのではないかと考えている。そこを間違えないように。
- ・ どこからニーズを把握して、どういうことをしていけばより県民に親しまれるかというのは慎重に進めていく必要があるのではないかと考える。
- ・ 施設の管理運営の方法で非公募とある。全国的にも非公募にしている施設があるが、非公募であるがゆえにチェック機能が上手く働かないこともあ

る。定期的に館の運営等が適正であるかどうかを色々な方々と議論し、常にブラッシュアップしていく考え方を持っていたほうが良いと思う。

- ・ 国内でも海外でもそうであるが、文化会館はシンボルとしての建物であり場所でもあるから、人が集うことが大切である。
- ・ 日本的な考え方をすると開館＝催し物があるときだけで、催し物のない日は人がいないイメージがあるが、そうではなくて、催し物がない時でも、あそこに行けばお茶ができるとか、何かの展示があるとか、常に主催者が何か催し物をやらなくても集っていけるような場所という考え方、それが全てではないが、人を集めていくという考え方が積み重なっていくことによって、シンボリックな要素を持った施設になっていくのではないかな。
- ・ 施設を作って、施設管理だけでなく建物の管理運営をして色々な文化を発信していく、人が集える場所にしていくという、言葉には易しいが、人が集って便利に供用できるということは、理想では掲げていても実際は難しいこともある。
- ・ 来て楽しい会館にしていだけたらなと思う。
- ・ まさに魂を入れるということがこれから非常に大切になるかと思う。そういうようなことを踏まえて本検討会議では事務局案のとおり了解することとしたい。

(2) その他

事務局から、令和5年12月の第2回検討会議で千葉県文化会館と青葉の森公園芸術文化ホールについて本県の文化芸術振興の中心拠点として、県施策との一体的な運用を求められることなどから、施設の指定管理を非公募で行うことを方向性として整理したため、令和7年2月議会において施設の設置管理条例を改正する議案を上程し、議決されたことについて説明した。(意見なし)